

平成28年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人愛媛大学

1 全体評価

愛媛大学は、「愛媛大学憲章」に示す「学生中心の大学」「地域とともに輝く大学」「世界とつながる大学」の実現を目指している。第3期中期目標期間においては、これまでに実施した取組をさらに発展させるために、学長のリーダーシップの下、(1)学生の可能性を育む教育活動の推進(2)特色ある研究拠点の形成と強化(3)グローバルな視野で地域の発展を牽引する人材の育成の3つを重要課題として定め、愛媛大学学生として期待される能力「愛大学生コンピテンシー」を全学生に習得させるために教育環境の整備と学生支援体制の強化を図ること、「地(知)の拠点」としての中核機能を拡充強化すること、多様な研究分野において実績ある研究者グループの組織強化及び新規編成を図り、特色ある研究を推進すること等の基本目標を8つの領域において掲げている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、学生の地域定着の促進に向けた取組を実施するとともに、地域と連携した研究・開発を推進するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

(「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について)

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成28年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 地域連携ネットワークを充実させるため、自治体・各種団体・企業等との連携協定を、年度計画に掲げる目標である2件を上回って3件締結している。「愛媛県商工会議所連合会」との連携協定については、愛媛県内の各地域の商工会議所の連合体であることや会員企業が約2万社であることから、大学の連携ネットワークを実質化する上で重要なものとなっている。このほか、「愛媛県中小企業家同友会」及び大洲市と連携協定を締結している。(ユニット「地域産業イノベーションを創出する機能の強化」に関する取組)
- プロテオ創薬研究分野において、研究推進の鍵となるヒトタンパク質の全数合成(24,000種)の達成を目指して、2,000種類のヒト遺伝子クローンを作製し、既に作製したものと合わせて22,000種としており、ヒト全タンパク質プロテインアレイを世界で初めて完成することに向けて計画を順調に進めている。(ユニット「世界をリードする最先端研究拠点の形成・強化」に関する取組)

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織の戦略的企画機能の強化 ②教育研究組織の見直し ③事務系職員の人事制度と人材育成マネジメント

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載11事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載3事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 積極的な募金活動等による外部資金比率（寄附金）の上昇

愛媛大学基金を設立し、学内3つの全てのキャンパスにおいて全教職員に向けた説明会を開催するとともに、県内5経済団体ほか県内外の企業80社を訪問するなど積極的な募金活動を展開した結果、平成28年度における寄附金に係る外部資金比率は約3.4%（対前年度比約0.5ポイント上昇）となっている。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①自己点検評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載3事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理・環境管理 ③法令遵守等 ④学術情報基盤の充実

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載10事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、平成27年度評価及び第2期中期目標期間評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が実施されていること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 学生の地域定着の促進に向けた取組の実施

県内就職・定住を促進する教育プログラムを通して、学生の地域志向性を高め、県内就職率を高めることを目的とした「地域志向キャリア形成センター」の設置や、キャリアアドバイザー及び就職支援員の増員等を通じて、学生の就職支援体制を強化している。加えて、愛媛県内の企業等に就職し、県内に定住する予定の県外出身の学生20名を対象に「地域定着促進特別奨学金」として修学資金20万円を給付するなど、地域への定着を促進する取組を実施した結果、平成29年3月卒業生の県内就職率は40.0%となり、平成27年3月卒業生の37.7%、平成28年3月卒業生の39.6%に続き、着実に増加している。

○ 大学連携による知的財産管理システムの運用

四国地区5国立大学連携による新たな知財管理システムSOPHIAの導入について、四国産学官連携イノベーション共同推進機構において実務者による検討を進め、既存データの移行と基本的な機能のチェックを行い本格稼働させている。本システムの導入により、各法人が個別に管理していた知財情報を一括で管理し、四国地域における効率的な運用による新たなマッチング機会を創出することを目指している。

○ 地域と連携した研究・開発の推進

県内自治体や企業からの相談や情報交換を通じてニーズを把握し、学内研究者とのマッチングを図り、学内外への事業申請を行い、地域と連携した研究を49件実施している。この中で、愛媛県と地域企業との共同研究を進め、愛媛県特産の食材を生かした新たな食品や、廃棄物から付加価値の高い銅を選別する金属分別装置を開発するといった2件の新事業を創出している。

○ 世界初となる透明ナノ多結晶ガーネットの開発

地球深部ダイナミクス研究センターでは、超高压を利用した新しい材料開発を目指した研究を推進しており、超高压合成法の応用により、透明ナノセラミックスの一種である透明ナノ多結晶ガーネットの開発に世界で初めて成功している。

附属病院関係

(教育・研究面)

○ プライマリ・ケアに対応した臨床研修環境の整備

地域医療研修先として、地域医療の中心的医療機関である東予地区及び南予地区の5病院を新たに追加し、急性期疾患から慢性期疾患までの幅広い研修を行い、地域医療の実情を学ぶ機会を増やすとともに、愛媛医療センター救急輪番診療へ1年目研修医33名、2年目研修医114名の合計147名を派遣し、2次救急の研修を行うなど、プライマリ・ケアに対応した臨床研修環境の整備充実を図っている。

(診療面)**○ 地域医療連携の強化に向けた取組の実施**

新規患者の入院受入れについて、地域病院の意見を踏まえ、患者紹介時に活用できる「地域連携だより」を発行・配布するとともに、地域病院を直接訪問し、顔の見える医療連携を図ったことにより、平成29年3月末の新入院患者数は12,738名（対前年同月末比741名増）となるなど、地域医療連携の強化が図られている。

(運営面)**○ 地域との積極的な連携による病院経営の改善**

総合診療サポートセンターが中心となり、各診療科の医師との面談による連携強化を図り、かかりつけ医等からの外来紹介や、入院時から退院を見据えたかかりつけ医等への逆紹介の効率化に取り組んだことにより、平均在院日数は14.9日（対前年度比1.5日短縮）、逆紹介率は65.7%（対前年度比11.2ポイント上昇）となるなど、地域との積極的な連携による病院経営の改善が図られている。